



浦和大里小学校だより

7月号 令和6年7月1日発行

教育目標
夢と希望をもち、
人間性豊かで
心身ともに
たくましい子の育成



笑顔の効用

校長 中野 緑

「最初はグー！ジャンケンポン！」
登校途中に地域の方たちが、ジャンケンポンや「いってらっしゃい！」の声掛けで子どもたちと温かく関わってくださっています。自然に笑顔が生まれます。

代表委員会の前期のテーマも「笑顔」に決まり、子どもたちの発案で「いいところポスト」の取組が始まりました。自分や友達や先生のいいところを職員室前にあるポストに投函するのです。すると昼の放送で、それが読み上げられます。先生自慢、友達への感謝が多く語られます。「友達のいいところはいっぱい見つかるんだけど、自分のいいところは分からない」とつぶやく子どもがいました。一緒にいた友達は「えっ」と驚き、「だってさ、〇〇はさ、優しいでしょ、友達を励ましてくれるでしょ、足が速いし、話が面白いし・・・」と止まりません。「もういいよ・・・」と照れ臭そうにしている姿がかわいらしく、いい取組だなあと感心しています。

6月に行われた音楽会の取組では練習から当日まで、たくさんの子どもの笑顔に出会いました。難しいハーモニーがピタッと決まり、互いに拍手して喜ぶ姿はこちらも自然に笑顔になりました。心を伝えるために、迫力のある大きな声、優しい声など表現を工夫し、昨年担任した先生に「素敵だった！」と声をかけられてはにかむ笑顔も印象に残ります。担任が子どもたちの頑張りに感動し、泣きながら笑う姿は胸に迫るものがありました。

80歳と7か月で3度目のエベレスト登頂を成し遂げた、三浦雄一郎さんは今年92歳になります。ご自身の病気や老いと対峙しながら、様々な偉業を成し遂げてきた三浦さんの「マイルール」について語った記事を読みました。三浦さんのマイルールは、「どんなことも楽しんで、常に上機嫌な自分であり続ける」ということだそうです。和やかに笑っていると、見ている周囲の人も笑顔になり、幸せの連鎖を生むといいます。確かに、それはよく分かります。子どもたちが楽しそうに笑っているのを見る幸せは、子どもに関わる全ての人を知る喜びでしょう。

とはいえ、私にとってはなかなか難しいルールです。靴下をはこうとしてよろめく自分にため息をつき、洗濯機に裏返しのまま入れられたシャツにイライラする小さな自分。そんな自分を自覚しつつ、周りに与える影響も心に刻み、嬉しいこと、楽しいことを分かち合いながら、笑顔で過ごせる自分でいようと思います。

*学校ホームページ「学校生活」では、浦和大里小の日々の様子を発信しています。どうぞご覧ください。